



「アイ・アム・サム」"I AM SAM" ●●● 第15回

“And it's about constancy.” 「変わらないこと」

7歳児の知能しかないサムと最愛の一人娘ルーシー。
彼女が7歳になったとき、ソーシャル・ワーカーは二人を引き離すが、
サムは果敢に裁判に打って出る。IQなどでは計りきれない
サムの父性愛をていねいに描き出した映画、そして英語。

文=中野香織



「デッドマン・ウォーキング」や「ギター弾きの恋」の個性派俳優ショーン・ペンの、完璧なまでの演技が全米で話題に。全国松竹東急系で6月からロードショー。

クルマが必ずしも「移動の道具」ではないように、英語は必ずしも「伝達の道具」ではありません。オイルの香りや革張りシートの感触そのものがクルマ好きに官能的な幸福を与えることができるように、英語の音の響きやそこから生まれる絵画的イメージそのものが、英語好きの偏愛の対象になることもあります。

たとえば、何の実用の足しにもならないこんな英語の詩。

**Picture yourself in a boat on a river.
With tangerine trees
and marmalade skies
Somebody calls you, you answer
quite slowly**

A girl with kaleidoscope eyes

(ボートに乗って川に浮かんでいると
想像してごらん)

タンジェリンの樹とマーマレードの空
だれかが君を呼び、君はゆっくりと答える
万華鏡の目をした少女だ)

いわずとしれたビートルズの'Lucy in the Sky with Diamonds'の歌詞の冒頭部分です。タイトルの大文字をつなぐとLSDになる、というインチキくさい深読みにならずにほどこいちゃってイメージにあふれた反実用英語ですが、それゆえにいっそう、**irresistible** (抵抗できないほど魅力的) なわけですね。で、こんな懐しの歌を引きあいに出したのは、「I am Sam」という映画の話をするためです(長い前置きですみません)。

ショーン・ペン演じる「知能7歳」のシングル・ファーザー、サムが、生まれたばかりの娘を見るや頭のなかにこの歌が流れ出し、「ルーシー・ダイヤモンド」と名付けるのです。感情の動きをそれこそ瞳に万華鏡のように映し出す愛らしいルーシーとサムは、幸福に暮らしていましたが、ルー

シーが7歳になるとソーシャル・ワーカーの手によって二人は引き離され、サムは父親の資格があることを示すべく法廷で闘う決意をする……

と聞くと、いかにも **tear-jerker** (お涙ちようだいモノ) だし、ショーン・ペンが障害者を演じれば上手に決まっているし、サントラがビートルズ尽くしとくれば嫌いとは言えないだろうし……と引けてしまうのですが、意外にこれがクサクなく、ビートルズにまつわるエピソードが脚本のなかに効果的にちりばめられ、小気味よいテンポで展開していきます。

たとえば、「ママは帰ってくると思う?」とたずねるルーシーに対し、ビートルズ関連の知識だけはマニアックにもつサムは、こう答えます。

**Paul McCartney lost his mother
when he was little.**

**And John Lennon lost his mother
when he was little.**

**And Annie says that sometimes God
picks just the special people.**

(ポール・マッカートニーは小さい時にママがいなくなった。ジョン・レノンも小さい時にママがいなくなった。神様は特別な人からママを奪うことがある、とアニーは言ってる)

アニー(ダイアン・ウィースト)とは近くに住む引きこもりのピアノ教師で、サムとルーシーの最大の理解者です。彼女が勇気をふるって外に出て、法廷でおこなう証言のなかに、巧みなレトリックを使ったセリフがあります。

**Look at Lucy. She's strong. She
displays true empathy for people. All
kinds of people. I know that you all
think she's as smart as she is despite
him, but it's because of him.**

(ルーシーをご覧なさい。彼女は強く、誰とで

も心を通わせることができる。あの父親にもかかわらず娘は賢い、とお思いでしょうが、あの父親だからこそ娘は賢いの)

「賢い娘」と「知能7歳の父親」との因果関係を、**'despite'** (にもかかわらず) でつなく世間の固定観念を逆手にとり、**'because of'** (だからこそ) とつなくことによって、何やら反論できない説得力を発揮している名セリフですが、これが生きるのも、IQなどというものさしでは計りえないサムの父性愛がていねいに描き込まれているからでしょう。父娘の交流を描く数々の美しいシーンは、うそくさいと斬る批評家もいるようですが、ここはむしろファンタジーとして堪能すべきところに思えます。

ファンタジーだから現実世界へのメッセージもあります。「あの父親だからこそ賢い」とアニーに言わしめたサムが法廷でとつとつと語る「良い親の条件」とは……

**And it's about constancy, and it's
about patience, and it's about
listening, and it's about pretending to
listen, even when you can't listen
anymore.**

(変わらないこと。辛抱すること。そして話を聞くこと。たとえ聞いていなくても、聞いているふりをすること)

教訓めいた話は嫌いなのですが、このセリフは心に残りました。「親の条件」ばかりか「上司の条件」、「教師の条件」、さらには「永遠の友人の条件」「長続きする恋人の条件」「長続きする営業マンの条件」としてすら通用する言葉ではないかとまで思ったりして。**'Constancy, Patience, Listening, and Pretending to listen'** の頭文字をとって、CPLPの法則。…インチキな深読みでした。